

《資料》

ケアの提供量と経時的変化に焦点をあてた消化器外科看護学アセスメントツールの検討

中神 友子¹⁾, 中神 克之²⁾

¹⁾ 相山女学園大学, ²⁾ 四日市看護医療大学

要 旨

本研究の目的は、消化器外科患者の包括的な看護アセスメントツールの検討である。本研究における消化器外科看護学アセスメントツールは、身体的・精神的・社会的・宗教的という4つの局面からなり、ケアの提供量と経時的変化を基に考察した。これらのアセスメント項目を絶対的アセスメント項目と相対的アセスメント項目に分類して検討を行った。

身体的アセスメントは、フィジカルアセスメントを行い消化器系機能に焦点をあてた初期理解アセスメントを行う。精神的アセスメントは、主観的な情報が多いため既存尺度の使用が望ましいと考える。社会的アセスメントは、患者の退院後の生活について既存尺度を活用してアセスメントを行う。宗教的アセスメントは、初期理解アセスメントによりケアの必要性を早期に見極め、より個別的で焦点化したアセスメントを実施することが効率的と考える。

キーワード：アセスメント、消化器外科看護、手術患者